

日本基督教団 西国分寺教会牧師 北原 葉子
牧師：23年 説教塾：4年 セミナー参加：6回

グループでの第二の黙想検討感想

グループメンバー：大澤 正芳、小川 洋二、北原 葉子、後藤 弘、渡邊 洋子

5名の小グループで話し合いをもったが、自分が考えた黙想を読み上げたとき、自分では「そのつもり」でありながら、聞いている人には通じていないことを指摘され有益でした。例えば、否定的な例が、最終的に肯定的なメッセージへと変えられることなく心配が残ってしまう事に気づかされたこと等です。説教作成の前にそのような指摘を受けることで、作成の時に気をつけることができるので、第二黙想について語り合うのは重要だと発見しました。特に議論になったのは、裁きの言葉を語りながら、それが同時に救いと癒しになるのは、どうしたら良いか、ということですが、やはりそれが主イエスの御心に沿って語られ神からの言葉になっていることだ、というのは重要な確認でした。今回のテキストで言うと、中途半端な罪人意識が、徹底した罪人認識に変えられる、そのとき神の恵みの偉大さ、憐れみの豊かさが伝わるということで、なすべきことの目標は見えたのですが、それをするにはどうしたらよいか、頭を悩ませました。何れにしても、課題を自分で漠然と考えていると、自分だけの特殊な悩みかと思って、そのうちに棚上げにしていまいがちですが、皆で黙想を披露し語り合うことで、自分が課題に感じ格闘していることは、普遍的な課題だと気づかされ、そうすると意識的に取り組みつ続ける「励まし」を与えられます。解決はしなくても、解決のヒントも与えられます。感謝でした。